課題番号35

新たな水田複合経営の確立

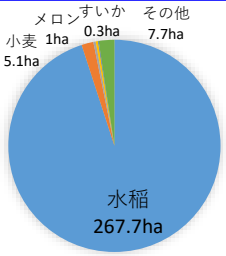
～　古き知恵、新しい技術、女性も子供も活躍できる地域づくり　Part２　～

対象：雨竜町中島地域（８戸）

１　活動の背景

中島地区の概要

経 営 形 態 ：水稲を主体とした複合経営
経 営 規 模 ：(R3)平均25.5ha→(R7)平均35.2ha
経営主年齢：(R3)平均51.1歳 →(R7)平均49.9歳
若手経営者と後継者が比較的多い地域



地域の現状	地域のニーズ	活動内容
基盤整備が施工され、大区画ほ場での稲作が進んでいる	稲作の大規模化に伴い、農作物の安定生産技術や、省力化に向けたスマート農業技術の導入・定着が必要	省力化技術の定着と水田基盤整備後の安定生産の支援
水稲の規模拡大に伴って、園芸作物の労働力が不足		ドローン等のスマート農業の推進・技術支援
若手農業者を中心に規模拡大の意志が強い	作物選定、作業体系、労働力確保、技術継承等について、経営管理能力の向上が必要	担い手の経営管理能力向上に向けて、経営分析ツールを活用した生産管理を支援

２　活動の経過

推進事項：農作物の安定生産と省力化

水稲省力化技術の定着(R3～4)

密播中苗・高密度播種短期育苗(高密短)の試験ほ設置、労働時間の調査

水田基盤整備後の水稲安定生産(R5～6)

土壌断面調査、土壌診断、基本技術項目の再確認

大豆の基本的栽培技術の励行(R3)

フェロモントラップの設置・防除の提案、根粒菌着生の確認・追肥の提案

スマート農業の推進(R4～6)

ドローン散布効果の確認、環境測定機器の実証ほ設置

推進事項：担い手の経営管理能力向上

分析ツールを活用した生産管理・地域の特色を生かした複合経営の確立(R3～7)

クミカン見える化ツール・原価分析ツールを用いた経営分析、今後の営農に関する中長期計画の聞き取り、経営に関わる家族を対象とした講習会の実施

３　成果の具体的内容

水稲省力化技術の定着(R3～4)

表1　経費の比較　(千円)

区分	経費	育苗	本田
成苗ポット	476	156	320
高密短	402	77	325
	85%	50%	102%

経費・労働時間共に削減！

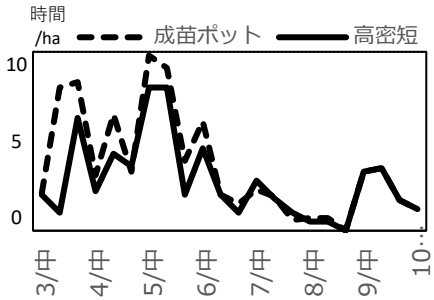


図1　労働時間の比較

水田基盤整備後の水稲安定生産(R5～6)

健苗育成や水管理など、基本的な技術項目を５つ設定。４つ以上の実施を達成目標とした

８戸全戸で４項目以上実施され、７戸は町の平年値を上回る収量を確保！

農家	育苗形式	基盤整備後年数	土壌診断による適正施肥	健苗育成	適正な水管理	溝切り	心土破砕	収量
A	成苗ポット	3	○	○	○	○	○	◎
F	成苗ポット	3	○	○	○	○	○	◎
B	成苗ポット	2	○	○	○	○	○	◎
G	成苗ポット	2	○	○	○	○	○	◎
H	密播中苗	2	○	○	○	○	×	×
C	成苗ポット	1	○	○	○	○	○	◎
D	成苗ポット	1	○	○	○	○	○	◎
E	密播中苗	1	○	○	○	×	○	◎

○実施　×未実施（収量 町平年値に対し 100%～◎ ～89% ×）

表２　基本技術項目と実施状況(一部抜粋)

大豆の基本的栽培技術の励行(R3)

表３　大豆栽培の目標と実施状況

	は種深度(cm)	除草	追肥の判断	適期防除	収量
目標	2～3	土壌処理の実施	根粒菌による判断	トラップの活用	地域平均95kg/10a
C	○	○	○	○	245
I	×	△	○	○	132

発生雑草に適した除草剤や、害虫の発生予察・防除手法について農業者とともに確認

新規作付者でも地域平均以上の収量を確保！

スマート農業の推進(R4～6)

表４　ハウス内温度の見える化

時刻	推奨温度	日中30℃以下 夜温18℃以上						
		6/28	6/29	6/30	7/1	7/2	7/3	7/4
0		18.3	18.9	17.9	20.0	13.9	14.6	16.2
1		18.2	18.3	17.3	19.9	14.6	14.1	15.9
2		18.3	17.8	16.8	19.8	14.3	13.5	15.7
3		18.5	17.2	16.3	19.8	14.0	13.1	15.1
4		18.8	17.4	16.5	19.7	14.5	13.5	15.9
5		21.4	20.2	19.3	20.3	17.7	17.0	18.2
6		22.1	23.4	23.1	21.8	22.6	22.4	21.0
7		25.7	27.8	27.7	24.4	24.0	25.6	23.2
8		30.8	32.1	31.7	24.4	24.1	29.2	27.0
9		34.4	34.7	35.2	23.4	25.7	32.1	27.9
10		36.8	37.5	38.0	27.8	27.6	34.5	34.4
11		38.8	39.4	39.3	24.9	33.9	36.0	37.6
12		39.3	40.9	39.6	28.9	38.4	37.1	38.8
13		33.7	39.3	37.3	30.9	37.4	36.3	37.0
14		33.7	37.9	34.1	25.1	35.0	32.8	31.5
15		35.6	36.1	31.6	20.9	33.1	32.0	27.7

表５　対象農家 秀優率の変化

メロン秀優率	R5	R6
２戸平均	92.4	95.3
町平均	95.2	93.9

環境測定機器のデータを用いて、高温・低温などのハウス環境を見える化

適切な栽培管理が行われ、導入農家では秀優率が向上！

分析ツールを活用した生産管理・地域の特色を生かした複合経営の確立(R3～7)

図２　農業所得の推移

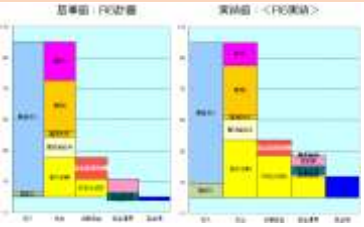


図３　クミカン見える化ツール

経営分析ツールを活用したことにより、現在の経営状況をより詳細に知ることができ、来年以降の経営計画を立てることができた

家族での参加があり、世代間や夫婦間の情報共有を図ることができた

４　今後の課題と対応

・当重点課題は、それぞれの推進項目と到達目標を懇談会等で説明･確認し成果を共有出来たことから当地区での重点活動は終了とし、地域全体への活動へ移行する。